

平成 29 年度広島市民球場運営協議会 会議要旨

1 開催日時

平成 30 年 3 月 23 日（金） 15：00～15：55

2 開催場所

広島市役所本庁舎 14 階 第 7 会議室

3 出席者

(1) 委員（14 名）

深山 英樹、山根 恒弘、西川 正洋、神出 亨、岡畠 鉄也、永野 正雄、
徳田 洋子、石井 健一郎、川瀬 啓子、曾根 幹子、下中 奈美、近藤 敏博、
部谷 京子、松田 元

(2) 広島市

松井市長、岡村副市長、山地都市整備局長
野田都市機能調整部都市再開発担当部長、
大塚広島駅周辺地区整備担当課長

(3) 株式会社広島東洋カープ

桂管理本部長

4 議題

- (1) 広島市民球場の運営状況等について
- (2) 平成 29 年度施設利用実績について
- (3) 2017 年カープ球団の事業実績について
- (4) 命名権について
- (5) その他

5 公開・非公開の別

公開

6 傍聴者

一般傍聴者	0 名
報道関係者	8 社

7 会議資料

- (1) 次第
- (2) 配席表
- (3) 委員名簿
- (4) 平成 29 年度広島市民球場運営協議会資料
- (5) 【参考資料】広島市民球場運営協議会関係法令

8 会議要旨

委員定数 20 名のうち出席者 14 名であり、定数の過半数を超えているため、協議会が有効に成立していることを事務局が説明し、議題を説明。

<議事>

事務局： 広島市都市整備局都市再開発担当部長の野田と申します。どうぞよろしくお願
いいたします。

それでは、開催にあたりまして、松井市長から御挨拶を申し上げます。

市 長： 皆さんこんにちは。広島市民球場運営協議会の開催にあたりご挨拶をさせてい
ただきます。昨シーズンのカープの活躍ぶり、言わなくてもいいと思います。(会
場拍手)松田オーナーありがとうございます。今年も、地元縁の選手が入団され、
皆様の期待も大いに高まっていると思います。

セ・リーグ三連覇そして日本一が夢から現実にと強く願う今日この頃でありま
すが、市民球場もオープンから10年目ということで、そして確実に、いろんな
意味での成果を挙げております。これも運営にあたり様々な工夫をしていただい
ているおかげとっております。球場をつくる時には、本当に上手くいくのだろ
うかという、心配事もあり、進めながら予算もどうするかなどで、揉めに揉めま
したが、案ずるよりは産むがやすしのように、出来上がった成果を、皆が享受し
て、一時の心配事はどこに行ったのだろうかという状況です。しかしこの良さを
継続していくということが、これからの重要な課題と思います。

そして、上手くいく方向性というのは、駅から球場につながるカーブロード、
周辺のBブロック、Cブロックが再開発され、広島駅が陸の玄関としての、様相
をしっかりとつくり上げていくなかで、広島駅周辺が一体として、発展してい
くというようなことができれば、この球場の運営も、ますます安定し、球場での選
手の活躍がまさに広島の名を世界中に轟かせることになると思います。実際、今、
年間200万人を超える方が、この地を訪れていただいておりますので、経済波
及効果も大なるものがあります。これを、引き続き、皆様の力で持続するため、
継続するための取り組みを、これからはお願いする、そういう局面にきておりま
す。

事業についての実績など運営状況を後々事務局から報告いたしますけれども、
そういったなかで、球場をより良くするための声を、皆様から出していただいて
それを反映するように努力したいとっておりますので、これからの会議の中で、
忌憚のないご意見をお願いしたいとっております。終わりに、今日お集まりの
皆様方のこれからのますますの活躍、ご健勝を祈念いたしましてご挨拶といたし
ます。どうかよろしくお願いいたします。

事務局： 引き続きまして委員のご紹介です。本協議会は球場の運営に関する報告、審議
などを行うことを目的として委員20人で構成されています。時間の関係もござ
いますので皆様のご紹介はお手元の「委員名簿」に変えさせていただきます。

なお、本日は、中下委員、荻田委員、池田委員、山本委員、久光委員、圓山委

員の6名の方は所用によりご欠席となっております。本協議会は委員の過半数の出席により成立することとなっており、本日は20名のうち14名の委員に出席していただいておりますので有効に成立しております。

次に事務局の職員につきましては、岡村副市長以下、担当の職員がお手元の配席表のもとに出席しております。なお、本日は、議題の関係上、株式会社広島東洋カープの桂管理本部長にも事務局側に出席していただいております。ここで、市長は所用がございますので退席をさせていただきます。(市長退席) それではまずお手元にお配りしております資料の確認をお願いいたします。本日の「次第」、「配席表」、「委員名簿」、それと別綴じの「平成29年度広島市民球場運営協議会資料」でございます。本日の会議はお手元の次第に沿って進めてまいりたいと考えております。

それではここからは会長に議事の進行をお願いいたします。よろしく申し上げます。

会 長： それではさっそく議題に入りたいと思います。まず議題1「広島市民球場の運営状況等について」です。内容について事務局から説明をお願いします。

事務局： それでは、ご説明をいたします。お手元にお配りをしております運営協議会資料の1ページをご覧ください。「1 広島市民球場の運営状況等について」です。まず「(1) 平成28年度指定管理経費等の収支状況について」です。

市民球場につきましては、指定管理者として建設当初の平成21年度から現在まで、広島東洋カープを指定管理者として、球場の管理運営を行っております。

運営の仕組みにつきましては、プロ野球試合等に伴います球場の利用料金を、指定管理者の収入とし、これを維持管理経費に充てるとともに、最低2億1,100万円を市に納付していただくという仕組みとしております。

下に掲げております表は、指定管理者としての収支を表したものでございます。29年度はまだ決算ができませんので28年度の決算の記載をしております。

表の区分欄でございますが、まず、収入につきましては、予算額4億7,022万8,000円に対して、決算額6億8,025万1千円と、予算額を2億1,000万円程上回っております。これは、プロ野球開催にかかります、球場の利用料金につきましては、有料入場者数100万人を超えた場合に、加算金をいただく仕組みとしておりまして、28年度の入場者数が213万人と、当初見込みを大きく上回ったことや、クライマックスシリーズ、日本シリーズ開催による球場利用があったことによりまして、予算額を大きく上回る収入となったものでございます。

一方、支出につきましては、内訳の欄の「維持管理費」をご覧ください。右側のほうの決算額でございますけれども、2億6,142万7,000円となっております。

して、修繕費の増等により、予算額よりも約200万円増加をしております。

次に下の段、「市への納付金」につきまして、右側の決算額を見ていただきますと、4億1,882万4,000円で、これは先ほどの収入決算額6億8,025万1,000円から、維持管理費決算額2億6,142万7,000円を控除した額でございます。市ではこの納付金を球場建設にあたりまして発行した市債の償還財源に充てております。

続きまして「(2)平成29年度に実施した観戦環境の改善」についてです。毎年新たなシーズンに向けて施設の改善・改修を、カープ球団と広島市が行っておりまして、その主な取り組みを3点ほどご紹介いたします。

まず「ア 3階コンコース塗膜防水改修工事」、これは本市が整備したものでございます。改修の概要ですが、左下の配置図をご覧くださいと、水色に塗った部分が工事の箇所でございます。コンコースの仕上げである防水層の改修工事を行ったものでございます。事業費は4,306万円、本年3月9日に完成をしております。また、コンコースの残りの箇所につきましては、来年度実施する予定としております。

次に「イ アウトドアデッキ整備」についてです。これはカープ球団に整備していただいたものでございます。改修の概要です。見晴らしの良い2階席にグループ席を増席するもので、その整備箇所は左下の配置図を見ていただきますと、一塁側と三塁側の黄色を赤囲みした部分でございます。ページの中程右側にはイメージ図を記載しております。

一塁側はこれまでふわふわカープ坊やを置いていたスペースに床を張り、手すりと一部日よけを設け、ソファーやクッションを置くもので、定員は40名となっております。

三塁側は、未使用であったスペースをイメージ図のような形で整備するもので、定員は30名となっております。双方で事業費は1億2,000万円でございます。

最後に「ウ オブジェデッキ整備」です。これもカープ球団に整備していただいているものです。改修の概要ですが、コンコース一塁側カバ広場上にグループ席を増席するもので、配置図では緑色の箇所、その隣にはイメージ図を掲載しておりますが、ホームベース側付近が見えにくい場所でもあるため、モニターを設置するとともに、インスタ映えしそうなサングラスをかけた赤い動物のオブジェを12体設置することとされ、定員は37名となっております。事業費は3,800万円です。これら2種類のデッキの整備によりまして、ボールパークとしての魅力が一段と高まっていくものと考えております。以上で説明を終わります。

会 長： ただいまの説明を聞いてご質問があれば挙手してお願いします。

委 員： この改修工事で、市が出されたものとカープ球団が出されたものがあるんです

が、ここの区分けで、こういうものはカープ球団が持たれる、こういうものは市がもたれるという線引きはどういうところにあるんでしょうか？

事務局： はい、基本的に球場の基本的な施設の整備にかかる改修部分、例えば今回コンコースですけれども、こうしたところは広島市が基本的に整備をいたしまして、球場の魅力を高めるような工夫が詰まったところの整備というところに関しては、カープ球団にお願いしているといった役割分担で進めているところでございます。

会 長： はい、その他、質問はありますか。特にないようでございます。それでは引き続き議題2の「平成29年度施設の利用実績について」から、議題4の「命名権について」までを一括して、事務局から説明をお願いいたします。なお、議題3の「2017年カープ球団の事業実績について」は、広島東洋カープの桂管理部本部長から、ご説明をお願いいたします。

事務局： はい、それでは2ページをご覧ください。

「2 平成29年度施設利用実績について」です。

「(1) 施設利用日数」です。

区分欄をご覧くださいますと、プロ野球興行につきまして、レギュラーシーズンが69日、オープン戦が7日、クライマックスシリーズが5日、ウエスタンの試合が7日、合計で88日の利用となっております。そして、アマチュア野球が72日、イベントその他が31日、このほかコンコース開放、雨天中止等合わせまして合計で278日の利用となっております、これは、ほぼ昨年並みでございます。

続きまして「(2) 施設見学」です。

コンコースの開放は、日数が80日、人数が54,665人となっております、昨年度と比べますと日数は同じですが、人数は1万人、割合で約23%の増となっております。その下のスタジアムツアー、これはカープ球団が有料で実施しているものですが、日数が73日、人数が12,411人と、昨年に比べまして日数で12日、人数が6,000人増となっております。これに社会見学をあわせました合計は、日数が170日で、昨年度よりも9日増となっており、人数は68,645人と、昨年よりも16,000人多くなっております。カープファンの増加とともに、解放感あふれるスタジアムそのものを楽しまれる方が非常に増えていると受け止めております。

続きまして3ページをお開きください。

「(3) プロ野球興行時の来場者動向」についてです。

これは、球場がオープンしました平成21年から毎年1試合アンケート調査をしておりまして、資料には直近の5年分を記載しております。

まず「ア 調査概要」です。

一番左側の黒囲みの所です。今年度は、8月の11日金曜日、祝日のナイトゲーム、巨人戦で実施をしております。配布数は1,500枚、有効回収数は1,342枚です。有効回収率が89.4%と非常に高い回収率でございました。これは、今年度、有効回収数を上げるために、郵送での回収をやめ、現地回収のみとしたことによるものでございます。

「イ」としまして、その下「調査結果」です。

「(ア) 性別」についてです。

男性を水色、女性をピンク色で表しております。女性の割合が毎年4割から5割で推移しております。総じてはやや男性が多くなっております。

続きまして「(イ) 年代」です。40歳代以上、これは真ん中あたりのピンク色よりも右側となりますけども、これが約6割を占めております。そして一番左側、20歳未満の割合が年々増加傾向にあることが読み取れます。

続きまして4ページをお開きください。

「(ウ) 来場者住所」です。

平日のゲームであった平成27年度、これを除きますと、毎年、一番左側ピンク色の広島県外からの来場者の割合が、3割から4割となっております。

「(エ) 年間来場回数」です。設問はその年何回目の来場ですかということ聞いておりますが、毎年2回以上のリピーターが7割から8割を占め、特に平日のゲームである27年度は初めての人が16%程度と少なく、10回以上の猛烈なファンの方が35%程度と多くなっております。

5ページをご覧ください。

「(オ) 野球観戦後の交通手段(帰りの交通手段)」です。

概ね、真ん中辺りオレンジ色の公共交通機関の割合が5割程度で推移をしております。一番左側ピンク色の自家用車が3割程度で推移をしております。29年度は前年より約7%ほど増加をしております。

次に「(カ) 観戦人数」です。

毎年9割前後が2人以上のグループとなっておりますが、平日のゲームでありました27年度を除きますと、1人の割合が減少し、グループの割合が増えております。

6ページをご覧ください。

「(キ) マツダスタジアムの評価」です。

球場の楽しさ・雰囲気、清潔感など様々な項目で評価をしておりますが、すべての項目で、ピンク系の色で示しました、「満足」、「やや満足」の割合が概ね8割を超えておりまして、高い評価を得ております。グラフの一番下の「総合的な満足度」につきましては、「満足」、「やや満足」を合わせますと、約95%となりまして、非常に満足度の高い球場という結果が表れております。

続きまして7ページをご覧ください。

その他としまして、アンケート調査の自由意見欄にいただきました主な意見を紹介しております。概ね好印象の意見となっております、ここにつきましては後程ご覧いただければと思います。以上でございます。

事務局： それでは「3 2017年（H29）カープ球団の事業実績について」説明をさせていただきます。

「(1) プロ野球入場者数」でございますけれども、2017年は新球場9年目のシーズンでございましたが、皆さまのご支援をいただきまして、公式戦の入場者数、これはレギュラーシーズンのみでございますが、本拠地球場2,150,261人、その他球場27,293人、合計2,177,554人となりました。前年比で20,223人増加してございます。

「(2) 経営状況」でございますが、数値は3月27日開催の株主総会において承認を得たのちに確定することとなります。売上高は188億600万円となりました。前年比6億400万円の増加となっております。また当期純利益は12億9,700万円となりました。前年比1億4,900万円の減少となりました。なお、この現象は、前田健太選手の移籍金があったことなどによるものでございます。

「(3) 地域貢献活動」でございますが、啓発活動、地域交流活動など引き続き取り組んで参りました。その合計件数は376件となりました。

以上、議題3についての説明を終わらせていただきます。

事務局： それでは9ページをご覧ください。

「4 命名権について」でございます。

命名権制度は計画的な大規模改修や施設改善等の財源を確保するために導入したものでございます。

「(1) 契約概要」ですが、平成21年度からの5年間に引き続きまして、平成26年度からの5年間もマツダ株式会社に、命名権取得者となっていただいております。命名権料として毎年2億2,000万円を納付いただいております。

「(2) 社会貢献活動」です。命名権取得者であるマツダ株式会社は球場を核として地域に貢献するパートナーとして下の(ア)から(オ)に掲げた社会貢献活動に取り組んでおられます。

「(ア) 広島県営林J-VERの購入」です。球場のナイター照明で消費する電力の発電時に発生する温室効果ガスの相当量を県営林で吸収してもらうために間伐植林等の費用負担をされております。

次に「(イ) 福祉車両の贈呈」です。これは球場の来場者が累計で100万人に達するたびに福祉車両を贈呈されているもので、29年度シーズンは3回この節

目がございました。まず3月31日には累計1,400万人を達成し、「ふたつか会ふたつかの里」へ、7月には累計1,500万人を達成し、「三矢会太田川学園」へ、9月には累計1,600万人を達成し、「似島学園」へ、それぞれ福祉車両を贈呈されました。

次に「(ウ) 球場周辺の清掃美化活動」です。プロ野球シーズン中にマツダ社員の方とご家族により球場周辺の清掃を実施されております。

次に「(エ) ヘリテージコーナーの設置」です。広島市、カープ球団、マツダ、それぞれの挑戦をテーマにしたディスプレイを球場3階コンコースに設置をされております。

最後に「(オ) 球場の情報発信」です。マツダ株式会社のホームページ等各種媒体を通じて球場の情報を発信されております。事務局からの説明は以上です。

会 長：はい、以上の説明について、ご質問はございますか。

委 員： 東京から来ました。今日は松田オーナーに感謝と、あと質問があります。まずは今年3連覇、日本一という夢を見させてくださったことを感謝したいと思います。ありがとうございます。

チケットですね。席がまた今年もいろいろ増えたりしているようですが、周辺のどなたに聞いても全くここ何年か球場に行けていないと、1枚も当たらないよという声を盛んに聞くんです。チケットの入手方法に関して、皆さんに平等に行き渡るようにというような工夫をなんかされているとは聞いてはいるんですが、実状を教えてください。

委 員： 実状はですね、去年に比べて、並んでいらっしゃる方を5試合限定で、枚数制限はしていませんが、調整してスムーズにいったつもりですが。

委 員： 枚数制限をしてないっていうのは、なぜか教えてください。

委 員： 旅行会社の人がいらっしゃるとしたら、例えば旅行会社の人と同じように並べられると。じゃあその時に、バス1台40名というものをやると、5枚でいくと8名並ばなくちゃいけないわけですよ。そうすると列は長くなるわ、で、その人らのコストというかそういう部分も高くなる。そういうので、最終的にはバスとかで来られる方のチケット代も同時に高くなると、いう風に私は思うんで、枚数限定はあまりしたくないなと思っています。チケットは非常に申し訳ないと思うんです。

委 員： そうですね、やっぱり難しいところですね。これだけお客様も増えている

し。でも本当に行きたいって市民のあのカープファンの皆さんが、なんかどうも行けてないような感じが見受けられるのでなんとかならないのかと思うのです。

委員：　すごく気持ちは、わかるんですよ。非常に申し訳ないと思っとるんです。全部の券が全部売り切れてるわけじゃないんですよ。恐らく皆さんのお気持ちの中であるのは、ある特定の試合で、例えば土曜日のデーゲームとか日曜日のデーゲームとか、そういう例えば阪神戦であるとか人気のあるカードという部分が中々手に入りづらいとか、けっこうあると思うんです。例えば指定席じゃなくて自由席であれば、コンビニに行かれて、券の種類を問わなければ、恐らく、全部売り切れてるわけじゃないんですよ。

委員：　自由席であれば買えるということですか？

委員：　保証しませんよ、僕は。今の状況で言えば。

委員：　自由席でも並ばないといけんというのがありますよね。

委員：　それもまた逆に言えば、自由席を指定席にするという方法もあるんですけど、そうするとますます入る人数が減って、ますます当たりにくくなると、いう形になりますよね。

ただ今年はそういう意味合いで、去年まではビジターファンはビジターパフォーマンス席で応援してくださいという形をとっていたんです。それを、今年は相手のカードによって、例えば、人気のあるカードは、ビジターパフォーマンスにしているけど、それを今年に限っては、人気薄のカードについては、カープの応援ができるような形で指定席にしました。数としては、より指定席を多く一般の人にも手に渡るような形の工夫はしたつもりです。ですからそれが比較的早く売り切れたという部分があるから。例えば指定席が買えなかったら、すぐそっちの方を、A指定席若しくはカープパフォーマンスが買えなかったら、そちらの方を買われて、今まで赤いユニフォームとか、ユニフォーム着て応援できなかったところを、ビジター席では、今年からはできるような形にしました。非常に小さな工夫ですけど、小さな積み重ねを一つ一つしながら、どうか皆さんに、絶対満足はしていただけないとは思いますが、できるだけそういう形を取りたいとは思っています。申し訳ないです。

委員：　はい、わかりました。ありがとうございます。

委員： 1点目の質問ですけれども、先程の質問にちょっと関連したことなんですけど、1ページのところですね、アウトドアデッキの整備をされていて、定員でいえば70名増席されているという工夫をされている。キャバが決まっていますからね、そんなに何百人ってにはできないとは思いますが。1点目の質問はですね、これから、席を色々変えたりすると思うんですけども、増席の可能性がどのくらいあるのかなってというのが、新しい席も含めてですね、どうという風なお考えを持ってらっしゃるのが1点。

2点目はですね、先ほどの巨人戦ですね、来場者の動向の調査の件なんですけど、8ページで、マツダスタジアムに対する評価で満足度の高いスタジアムはまずないですね。ですから色んなところから見学者、色んな方が来られてると思うんですけど、ちょっと気になるのが、「どちらでもない」が多いんですけど、座席の快適性で3.5割、3割半ですかね、「どちらでもない」、「やや不満足」ということなんですけども、どういう座席に座ってらっしゃったのかなあって思うんですね。本当は席によって違うと思いますので、このへんが気になるというか、どう見てらっしゃるのかなと思いました。何かこの辺で分析されていることがあれば教えていただきたいなど。

事務局： 2点目のアンケートの方を、お答えさせていただきますと、このアンケートは開門前に球場に並んでらっしゃる方々にですね、お声かけをして書いていただくという状況があります。そういった方々は、内野自由席に行かれる方が多くて、内野自由席になりますと背もたれがないので、座席の快適性というところで数字がちょっと落ちているのかなという理解をしております。

委員： 増席というのは、非常にわかるんです。恐らく、これは行政の問題かもしれないけれど、増席ができるスペースが恐らくないと思うんですね。市の代わりに言うのもおかしいけれど、例えば、大きなお金をかけて、それでリターンがそれだけあるかどうかなんですよね。1,000とか2,000とか、3,000までいかないでしょうね。2,000は増えるかもしれないけれど、そのために例えば何十億とか、まあ億単位のお金で席を作っていく。それがどうだろうかっていう話になるし、私は非常に慎重な男で、球団っていつも経営が良いわけじゃないんですね。良い状況がずっと続くとは、思っていない。いつか人が来なくなる時もあるし、じゃあその時のためには、何を作るかという、考え方としては、魅力のある席をたくさん作っていききたい、そこで人が集まって楽しめるような席が欲しい。だから単純に、普通の席をたくさんつくるのがいいのかなどうか、と球団としてはどうしても考えていきますね。

今回みたいな新しい試みをしているのは、何かの形で楽しんでもらえるような、みんなが集まってそこで楽しんでもらえるような球場作りというのをいつも持つ

ておきたい。キャパでいいますと、33,000人という数字があるんですけど、ここ見ていただければわかるんですけど、大体今年は31,000人くらいですかね。32,000人くらいとか入れようと思えばできるんですけど、今のキャパで、席の区分で、人が来られて、安全で、心地よく過ごせる球場いう前提で考えますと、どうしても我々が考えるのが31,000人台が一番手頃で、快適に過ごしてもらえりぎりの数字だと考えて、券を発券していると思っていただければありがたいです。

委員： はい、わかりました。ありがとうございます。

会長： その他、質問はございますか。

委員： 私どもの市民の活動に対して、いつも温かいご配慮いただきまして誠に感謝申し上げます。街中がカーブのキャラクターを認めておりますので、私は嬉しいことなんですが、反面いつも、あんなにカーブの皆さんが協力なさっているものですから、カーブのものを使ってるのがどうもですね、思ったんですが、自立してちゃんとやっていける力を同時につけないと、あのマークがついてるから物が売れるっていうのがずっとあるのは、ほんとにいけないことだというのは、活動しながら戒めているところなんですけど、でもほんとに心からお礼申し上げます。それが一つです。

もう一つはですね、実はつい最近アメリカに行ってまいりまして、そうしましたら見学ツアーの一環だったんですけども、カーブの大ファンっていうのがおりまして、アメリカでもカーブの話をして、なおかつ、ニューヨークに行ったときに何が何でもヤンキースタジアムを見たいという人がいたので行ってみました。もうただ建物を見るだけなのに行きたいんですよ。ヤンキースタジアムを見た時にほんと何か不愛想にドドンと大きく建っていたんですけども、そこに感激して、写真を撮ったんですね。その時にニューヨークヤンキースのマークが、路面にバァーっと大きくデザインされていて、そこを何としてもカメラで撮ってと言われたんです。その時はこんな球場だけを見に来てもいいのかと思ったけど、皆すごく満足して帰ったんですね。

サンフランシスコに行った時に、ふと通りがあったところがサンフランシスコジャイアンツの本拠地だったんです。あそこはATPのホームパークになるんです。ここがジャイアンツのところだっていうことがちゃんとわかる大きなサインがその球場についているんです。私その時にちょっと思ったんですけど、マツダスタジアムは、カーブが本拠地だとわかるサインがあったかしらと思ったんですね。市民球場ですから、命名権等、色んな問題はあるんでしょうけども、何かあったもいいんじゃないかというのが率直な気持ちでした。色々、ジャイアンツの

中を見てみましたら、命名権が付いた球場がほとんどですから、それでもその本拠地の球団名がきちっとわかるように、外観からもなっているところがとても多いように思います。是非、ご検討いただけたらなと思って申し上げてみました。

事務局： はい、どういったことができるかしっかりと検討してまいります。

委員： 今のニューヨークヤンキースのスタジアムっていうのは、見学されましたか。

委員： サンフランシスコはずっと行っておりますし、見学したりもしています。マツダスタジアムの勾配がありますでしょ。1階席のあの勾配は、サンフランシスコの勾配を測って、あの勾配と一緒になんですね。ですから、私は1階席の勾配の素晴らしさを見て、これは絶対真似をするべきだと。広島市に無理言いまして、あの勾配だけ維持してくれということをお願いしたんですよ。先程の分は、一体感が非常に強いんですよ。広島市も球場もカーブもなんか一体感がすごく強いから、今更いような感覚で思ったりもするんですけど。

球場周辺については、下水道のマンホールですか、色んな所に合作いいますかね、単に球場にカーブのマークが出てるというよりも、行政と一般の市民の人達とも一体感のある、手作りのある何か、シンボル、例のはだしのゲンの描かれたカーブ誕生物語ですか、ああいう部分がありますでしょ。ああいうものの土管を置いて、カーブの方もそういうものを作って。2020年は球団が70周年になりますんで、今度はプロムナードのあたりに、モニュメントみたいなものを作っていこうかと、いような話もしています。

全体的に合作というか、周辺の人たちとの合作いいますか、あれが独特の、僕は広島らしいんじゃないかなという風に思ったりします。むしろ逆にビジネスの一環としてヤンキースの名前を出したりとか、ヤンキースは自前の球場だと思えます。サンフランシスコは行政が作ったものかもしれません、ちょっとよくわかりませんが。

例えば、広島市で言えば、最初に下水道局の人が工夫をして、カーブ坊やのマンホールを作った。今度はマンホールを作られる会社の人から寄付をいただいて、それが新しくマンホールとして、球場内に設置される。手作りのなかで、表にはわからない、一目瞭然のような形ではわかりませんが、一つ一つ小さなところで色んなものが出てるといふふうに私は、この球場の良さじゃないかなと、自分では思ったりもします。カーブってでかでかと、ちょっとどっちかっていうと恥ずかしいような感じもする。

委員： 写真、インスタ映えじゃないですけど、あの球場を写すと自分たちも前に居たいわけですね。そうすると球場っていう、もう立派なサインが出てくるんです

けども、カーブという何か目印がその中にはないかなと。路面や何かにここを入
れたいなと私ちょっと思ったんです。

委員： マンホールもありますしね。マンホールハンターみたいな人がいて。だから、
そういうものは、下水道局の人がデザインしてから作られたマンホールのフタで
すよ。マンホールを作る会社の人から寄付されたマンホールですよ。これらは球団
の生い立ちと非常に良く似た感じのものが所々で色々見えてきて、今年で10年
ですけど、これ20年になったらまたプラスα、いろんなものが積み重なって
いて、何もだから大きくカーブというものを描いて、カーブの印が無くても、わ
かるようなものが積み重なっていて、より、一体感っていうか、地域の一体感
みたいなのが出てくるような球場になってくれればと。一緒に育てていくとい
うか、一緒に育てていくか、そういう球場のようになってほしい、そういう風
に私は思いますね。

委員： じゃあ、ご案内する時に、そんな風によく物語を考えます。

委員： よろしくをお願いします。

委員： 一つ質問があるんですけど。1ページにあるオブジェデッキっていうのは、赤
い眼鏡かけた動物のオブジェが、色々あって、モニターがあってということなん
ですけど、定員37名のための席になるんですか。

委員： このオブジェデッキっていうのは、カバ広場の上なんです。カバ広場の上だか
ら、残念なことに、バッテリーボックスが見えないんです。だから球場の雰囲気
を、あの位置は。

委員： それを覚悟で来なさいよ、ということですね。

委員： いや、そういうような言い方はしませんよ。モニターは付けてますよ。モニタ
ーで見て、それだけじゃ申し訳ないから、今日、恐らく設置してると思うんです
けど、11種類か12種類か忘れちゃったけど、それぞれの動物、小さいカエルと
かユキヒョウとか、ワニとかそういうものを、色んな所に配置して、一緒に写真
撮ったりとかができるような場所にしたいなと。

委員： でも難しい席ですよ。そういう場所であると皆さんに公開されるといいの
かなとも思ったり。37名っていうのが。

委員： 37名というのは、座れて楽しんで。基本的に私が考えてたのは、内野自由席の人が、そこに来て、みんな荷物を置いて、そこで楽しんで、飯食って楽しんで、どうしても野球観たい人は、下へ降りてコンコースで観てもいいじゃないかという感覚の席で作ろうとしたんですけど、それにプラスαの楽しみを入れて、いろんな形で楽しめるようにしたんです。

委員： 椅子はあるんですか？ベンチ？

委員： 椅子じゃなくて、ベンチじゃなくて、段々うか。プロムみたいなのところもありますし。来てみていただければ、いつでもご案内します。

委員： はい、ありがとうございます。

会長： 最後に、あんまり時間ありませんが。後ほど松田委員から、今シーズンに向けた抱負をお伺いすることになります。何かご質問は。よろしいですか。それでは。

委員： これが一番頭が痛いんですけど、3月になるとこの会があって、この部分が一番私にとって非常に辛くて、何を喋ろうかと。今日ギリギリになってから、調べてみたら、オープン戦で順位を見たら11位なんですね。これはいけないだろう、どうしようか思い、去年の成績をよく見たら、去年もオープン戦終わった時に11位だったんですね。そういう意味ではいいんじゃないかなと。若干はまあまあそういう言い訳ができるかなとちょっと思ったんですけど。なんでオープン戦11位なのかなと思ったんですけど、去年セントラルリーグで優勝したのに。

去年のドラフトの説明はちょっと長くなるかもしれませんが。去年のドラフトって、即戦力の選手というのは非常に薄い。非常に即戦力になるピッチャーが非常に少ない。12球団あるけれど、即戦力のピッチャーがとれるか、即戦力が3名か4名ぐらいじゃないんかなと。それぐらい市場としては、貧しい市場だったと。夏前ですけど、当初やっぱり今年のことを考えると、即戦力のピッチャーというのはどうしても必要だねという話をされていて、その中で、これだったら伸びしろがある選手を、リストアップはしてたんです。夏に突然、地元で天才的なキャッチャー出てきて、それでこれはいいんわいやと。これはいかにピッチャーだとは言え、違う選手を指名したら皆に顔向けできないということで、急遽変えて、中村奨成にしたんですね。それで、運が良く当たって非常に満足しています。

何が言いたいかというと、恐らく現場レベルでは、底上げを考えたんじゃないかと。だから、2年目3年目ぐらいの選手を中心に、非常に多く起用して行って、若手の選手をいかに、1軍に近いようなところにまで引っ張り上げるかというこ

とで、ずいぶんたくさん、練習というか、試しをずいぶんやって、その結果上手くできてなく、オープン戦で負けたと、いうのは現状ですから、まああまり心配をせずに、していただければ。さっき言いましたように、2年目3年目の選手って、今日も試合で投げたらしいんですけど、高橋。調子は悪かったみたいですけど、3イニング無失点で。3イニングで降ろしたということは、1軍の切符がひょっとしたら、まあわかりませんが、切符を手にした可能性があるなど。次でどういう格好で投げさせるかいうことを考えています。

野村が今日投げるということはローテーションを考えていくと、おそらくで野村が開幕じゃあないんだろうかなと。今、オープン戦で2勝しかしてないんですけど、その2勝は野村だという話を今日聞いたばかりです。いろんな形で若い選手がでてきて、シーズンってどうしても消耗戦なんですよ。そういう選手がどこかに入ってきてくれないと。だから去年は藪田が入ってきて15勝で、急にでてきた選手ですけど、藪田が15勝してくれて、岡田はまあちょっと忘れましたが、でてきてくれたからこそ、去年優勝できた。じゃあ同じような形で誰かでてきて、皆が出れなかった時に抜いていくと。層を底上げするとか、層を厚くすることによって、ずっと、強いままのカーブを維持できるんじゃないかなと、いう風に思います。

シーズンは、頑張ります。深山理論で言いますと、緒方37の法則というのがあって、去年の優勝の貯金が37で、一昨年の優勝も貯金が37。なんで37かという、緒方が一番最初に背番号つけたのが37なんです。緒方が入団したのがカーブ創設37年目。だからね、37に縁がある年だと思いますんで、縁起よく、深山理論を信じるのであれば、今年も頑張って三連覇いう風にいきたいと思っております。以上です。

会 長： それでは、以上を持ちまして、本日の運営協議会を閉会といたします。
ご協力ありがとうございました。

議事録署名者

深山英樹